

「歴史を守る宮大工になりたい」

入門先：舟木工匠

日時：令和7年8月19日（火）、20日（水）

講師：舟木聡史さん

はじめに

今回の短期入門では、2日間にわたり、舟木工匠の舟木聡史さんにご指導いただきました。

1日目は、最初に射水神社の儀式殿増築工事の見学と建て方の説明を聞きました。その後、勝興寺へ移動し、勝興寺の見学をしたり、宮大工・重要文化財修理についての説明を聞いたりしました。

【1日目】

1 射水神社（写真1）

○儀式殿増築工事の見学

- ・日本の気候に合った雨に強いヒノキを使っている。（写真2）
- ・建物を建てる時は、外観から作る。
（写真3）
- ・建築士、現場監督、木材屋、石屋など、たくさんの専門的な業種の人達が協力している。
- ・当て木（部材を保護するために使う木片）を使い、大切な柱などを傷つけないように工夫している。
- ・クレーン車は、道が狭いので使えないため、木材を運ぶのも人力で行っている。
- ・ホゾ（木材と木材をつなげる部分）には、折れないようにケヤキのような硬い木材を使っている。
- ・薄くて細い板を壁になる板に挟むことによって、板と板がずれないようにしている。
- ・周りの雰囲気に合わせて建物の屋根の材質を選んでいる。
- ・背割れ（あらかじめ背に溝を入れる加工）



写真1：射水神社参拝



写真2：ヒノキの木材



写真3：儀式殿増築工事

をして、他の部分が割れないようにしている。

2 勝興寺の見学

○勝興寺の建物見学（写真4）

- ・勝興寺は、京都の興正寺から船で持ってこられた。
- ・京都府にある西本願寺とつながりが強く、作り方がほぼ同じ。
- ・国宝、重要文化財のお堂中で9番目に大きい。
- ・硬いケヤキという木材を多く使っている。
- ・修理する時は、建てられた時代の建物と同じように見えるように気をつけている。例えば、江戸時代に建てられたものは、江戸時代の特徴を残して修復している。
- ・修理前に使われていた木材や釘は、できるだけ使っている。（写真5）
- ・絵や掛け軸などが破れていても、昔はどうなっていたのか証拠がないと直すことはできない。
- ・柿葺きというスギの木の板を重ねた屋根が勝興寺は多い。柿葺きは、細くて小さい竹でできた釘を使い、スギの薄い板を張り合わせていく屋根の作り方である。
- ・北陸は寒く、ヒバは採れなかったが、能登ヒバは採れたため、勝興寺にはたくさんの能登ヒバが使われている。
- ・昔の釘は、今と違って職人さんが1本1本たたいて作ったため、四角く、さびにくい。そのため、修理をする際も再利用して使われている。（写真6）
- ・火が使われていた台所は、木の色が黒くなっていた。修理する時には、新しい木に交換するだけでなく、当時の様子を残すために黒く着色してあった。



写真4：勝興寺見学



写真5：修復した床の様子



写真6：修復する前の釘

【 2 日 目 】

1 木の種類や道具についての説明

○木の種類について（写真 7）

- ・ヒノキ
水に強い。
柱などにも使える。
神社によく使われている。
- ・マツ
やわらかい。
柱には使えない。
梁に向いている。
- ・スギ
やわらかい。
柱に使われる。
- ・ケヤキ
かたい。
何にでも使える。（床、テーブルなど）
- ・能登ヒバ（アテ）
何にでも使える（床など）。

建築に向けた木材



写真 7：木材の種類についての説明

- ・キリ
軽くてやわらかい。
そうめんなどが入っている箱に使われている。
建築には使われない。

○木材の模様などについて

- ・年輪で木の年齢が分かる。
- ・赤身
建築に使っていい部分。
- ・白太
やわらかく、すぐ腐る。
虫に食われやすい。
建築に使ってはいけない。
- ・木を切る向きで木目が変わる。

丸太の断面



柾目



板目

○ 道具の種類について（写真 8）

- ・のみ
穴を掘る。
ホゾを作る。
- ・カンナ
板を削る。
- ・差し金
長さや直角かどうかを調べる。

仕事によって、どの道具を使って、どの大きさのを使うかよく考えて見極めている。



写真 8：道具の種類についての説明

2 工場での体験活動

◎カンナ体験（写真 9）

- ・木の端の真ん中に置いて、腰で引く。
- ・木を削りにくくなったら自分で刃を研いで、調整する。



写真 9：カンナ体験

◎ホゾ穴加工体験（写真 10）

- ・掘る所に正しく印をつけなくてははいけない。
- ・印をはみ出してはいけない。
- ・1mm 間違うと傾いてしまう。

◎模型作り

- ・たくさんの似たようなパーツがある。
- ・全てに印が付いている。
- ・釘を使わなかった。



写真 10：ホゾ穴体験

さいごに

1 日目には、射水神社で宮大工の仕事をしておられるところを間近に見させてもらい、宮大工の仕事の難しさや、昔のものをなるべくそのままの形で残すために技術がいることを知りました。また、勝興寺では、前に家族で来た時には気が付かなかったことまで詳しく説明していただき、ただ直すだけでなく、昔のくぎや木材をなるべく再利用したり、昔の姿はどうだったのかを調べて直したりするなど、たくさんの工夫や知識が必要

であることを知りました。私は、これらのことを知り、以前よりもっと宮大工になりたいという気持ちが強くなりました。

2日目には、カンナがけやホゾ穴加工の体験をさせてもらいました。舟木さんがやっている様子を見てみると、とても簡単そうだったのに、実際にやってみると想像していたより、とても難しかったです。宮大工の人達は、たくさんの練習をして技術を身につけていることが分かりました。

2日間の短期入門を通して、宮大工になるためには、カンナやノミをじょうずに使えるだけでなく、いろいろな勉強をがんばっていく必要があると思いました。例えば、歴史的建造物に詳しくなるための社会、長さや割合の計算が正確にできるようになるための算数、いろいろな木材の性質を知るための理科などです。きっとその他にも、学校や生活の中での様々な経験が宮大工になるために役立つのではないかと思います。私は、これからどんなことにも挑戦して、いつか必ず宮大工になりたいです。